

CSR Report 2019

SEIBU SERVICE GROUP



目 次

項 目	ページ
環境経営方針	1
西部サービスグループ 企業理念	2
代表者interview	3
CSR activities	4～5
組織の概要（西部サービス）	6
環境経営組織図及び役割・責任・権限表(西部サービス)	7
許可の内容、廃棄物処理フロー(西部サービス)	8
主な環境負荷の実績、環境経営目標及び実績（西部サービス全社）	9
環境負荷の実績、環境経営目標及び実績（神戸工場）	10
環境負荷の実績、環境経営目標及び実績（大阪工場）	11
環境経営計画の取組結果とその評価（神戸工場）	12～14
環境経営計画の取組結果とその評価（大阪工場）	15～16
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、緊急事態対応訓練（神戸工場、大阪工場）	17
組織の概要（アルファフォルム）	18
環境経営組織図及び役割・責任・権限表(アルファフォルム)	19
許可の内容、廃棄物処理フロー(アルファフォルム)	20
主な環境負荷の実績、環境経営目標及び実績（アルファフォルム）	21
環境負荷の実績、環境経営目標及び実績（アルファフォルム）	22～23
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、緊急事態対応訓練（アルファフォルム）	24
Access Map	25



皆様のビジネスをより環境と人に優しくする、それが私たちの仕事です。

業界初「光学選別」での処分業許可取得と、近畿一円の物流ネットワークを確立し、

お客様の様々な状況に対応できるよう、各種機材も取り揃えております。

堅実性と透明性をモットーに、業界のプロとして、ベストソリューションをご提案し、環境への配慮、
処理フローの透明性、安心のサービスでお客様の信頼を築いて参ります。

産業廃棄物から固形燃料化プラントへ、工場のオートメーション化により

RPFの大量生産と低コスト処理を実現しています。

産業廃棄物処分業優良許可認定を取得し、環境に優しく、循環型社会の創造を目指しています。

環境経営方針

＜企業理念＞

- ・顧客のニーズに応じて、安心、安全、健全なリサイクル事業を推進します。
- ・再資源化事業を通して、環境問題に取り組み、地域に貢献する企業を目指します。
- ・事業の発展に努め、会社の繁栄と社員の幸福を実現します。

＜基本理念＞

西部サービス株式会社は、大阪市及び神戸市にリサイクル工場2工場を立地し、産業廃棄物処理事業及び産業廃棄物のリサイクル活動を通じて社会に貢献し、全従業員の幸福と生活文化の向上を目指すと共に、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適用並びに、生物多様性及び生態系の保護を推進します。

＜環境方針＞

- 1.環境マネジメントシステムを構築し、環境パフォーマンスを向上させる為、継続的改善を図る事により、積極的に環境保全活動を推進します。
- 2.環境関連の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
- 3.当社の事業活動、製品及びサービスに関わる環境側面を常に認識し、汚染予防及び環境保護を推進すると共に、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。その中で次の項目を環境管理の重点テーマとします。
 - ①産業廃棄物の受託量増加及び売上増加に取り組みます。
 - ②受託した産業廃棄物に対し積極的にリサイクル率を向上させます。
 - ③一般車輛・収集運搬車輛及び工場内重機の燃料の有効利用により使用量を削減します。
 - ④照明、各種設備機器などに使用する電力の削減及び、効率的な使用に努めます。
 - ⑤RPF(石炭の代替燃料)の製造に取り組みます。
 - ⑥事業系一般廃棄物の削減に努めます。
 - ⑦水使用量の削減及び、効率的な使用に努めます。
 - ⑧自らが生産、販売、提供する製品及びサービスに関し、環境負荷低減に努めます。
- 4.環境目的、目標を定めた上でそれを推進、見直す事により環境マネジメントシステムの発展を図ります。
- 5.従業員が基本的な考え方を認識し、環境方針に基づく行動が出来る様に従業員教育を行います。
- 6.環境経営の継続的改善に取り組みます。
- 7.尚、環境方針は一般の人に公表します。

制定日：2018年7月25日

西部サービス株式会社

代表取締役 片境 邦喜



代表者interview

2019年度は、中国の環境規制による廃プラスチック類の国内処理増加が見込まれていたため、その需要に応えるとエネルギー使用量の増加は、避けられないと当初より予測はしておりました。当社は廃プラスチック類をエネルギーに変える事により、社会に貢献している会社ですので、当社の環境目標として、より多くの廃棄物をリサイクルすると同時に、効率よくエネルギーを使用するという原単位による削減目標を掲げ事業に取り組んで参りました。今年度においては、RPF燃料の他、フラフ燃料の二本柱のエネルギー生産が軌道に乗り、環境目標も全て達成する事ができました。これも当社を信頼して頂いているお客様と、それに応えてくれている従業員の努力の賜物です。ただ2020年の年が明けてから全世界的なコロナ禍の影響に襲われ、今現在も世界がこの危機を乗り越えようと奮闘しています。当社においても例外ではございません。今だからこそできる事として、安全の見直しや、テレワーク、電子化、またリサイクルも一手間、二手間かけることにより、より多くの廃棄物を再資源化する事ができます。経済も少しずつ復調の兆しが見えてきています。この兆しが光となったとき、さらなる飛躍とできるように、2020年度も社会と環境に貢献できる企業として、事業に進進していきたいと思っております。〈令和2年6月23日〉



西部サービス株式会社
代表取締役 片境 邦喜

□代表者による全体の評価と見直し・指示

《情報》

◆自社と取り巻く環境問題の変化◆

- ・廃プラスチック類の輸出向STOPによる物量の増加と処分費用の値上がり。
- ・フラフ燃料の本格的増産。

◆環境経営目標・計画の達成状況◆

- ・全項目達成

◆その他◆

- ・利害関係者からの要請→RPFの塩素濃度、フラフ燃料の増産及び安定供給



《見直し・指示》

◆環境方針◆

- ・見直しなし

◆その他◆

- ・一部業務のテレワーク化など検討。

◆環境経営目標・環境経営計画◆

- ・見直しなし

◆実施体制他◆

- ・見直しなし

□環境活動の紹介

★循環型エネルギー RPF について

当社では様々な廃棄物を集め、自社の工場で選別・破碎を行い、再生利用困難な廃プラスチックと木くず、紙くずから固形燃料を製造しています。

固形燃料は「Refuse derived paper and plastics densified Fuel」を略してRPFといい、石炭の代替品として製紙会社など様々な場所でボイラー燃料として使用されております。RPFの特徴として、二酸化炭素の排出量の抑制と、灰の発生率も抑制されるため、環境にも良く、長期にわたり安定した供給先があると同時に、小型で高密度なため、石炭と同等の発熱量でありながら、低価格なのでコストダウンの計れる再生資源燃料となっています。

当社では、多種多様な混合廃棄物を、作業員の手作業を始め、高度な機械を使いRPFの原料となる廃棄物を選別することが可能です。

★事業の透明化

- ・インターネット上にて、当社のHPを掲載していると共に、優良産業廃棄物処理業者の情報サイト「さんばいくん」にて年間の処分実績、RPF製造実績等情報公開・事業の透明化に努めています。

西部サービスG HP	http://www.seibu-recycle.co.jp/
さんばいくん	http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/index.php

CSR activities

seibu service group

◆2019年6月15日◆

《不適物・危険物に対する情報交換会》



弊社工場にお持込みいただいている収集運搬業者様と、廃棄物の事や、困っている事、そして昨今、処理業者の間で火災の原因として大きな問題になっているリチウムイオン電池の混入について情報交換を行いました。また不適物混入に対して多大なご協力を頂きました業者様に弊社から感謝状をお渡しさせていただきました。今後も収集運搬業者様と協力の上、安心・安全・健全な循環型社会を構築していきたいと思ひます。

◆2019年6月29日◆

《西部G安全大会/ HKQC大会2019》



過去の事故の発生状況、傾向を数字で捉え、従業員全員で安全について考えました。またHKQC(Hanwa Knowledge Quality Control)大会では業務プロセスの改善を目的に、部署間の枠を超えてグループディスカッションを行いました。話し合った内容を今後に活かし、ステークホルダーの皆様にとって、安心・安全・健全で、何より皆様に愛される企業を目指して頑張っていきたいと思ひます。

◆2019年9月20日◆

《第9回 チャリティー ボウリング大会》

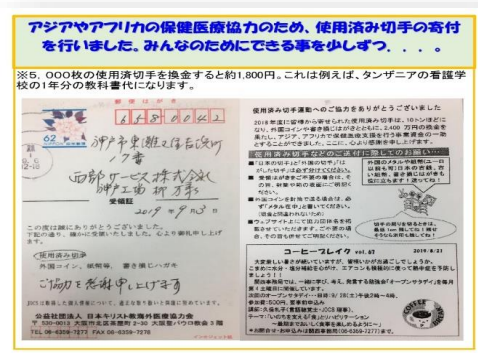
※主催：兵庫県産業資源循環協会青年部



神戸市ボウリング倶楽部にて第9回兵庫ブロック チャリティーボーリング大会が開催されました。今回は、近畿ブロックのチャリティースポーツ交流会との合同事業ということもあり、総勢100名の方々と親睦を深めることができました。今回集まった募金は、「台風15号 及び九州北部豪雨災害の寄付金」とさせていただきます。また、今年も株式会社マンダム様、株式会社ニシイチドラッグ様より協賛をいただきました。本当にありがとうございました！

◆2019年9月3日◆

《使用済み切手の寄付》



西部Gでは、アジアやアフリカの保険医療協力のため、公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会を通じ、使用済み切手の寄付を行いました。小さな事からできる事を少しずつ行い、社会のために力になれる会社を目指していきたいと思ひます。

◆2020年2月15日◆

《応急手当講習会》



神戸市消防隊員の方を講師としてお招きし、万が一、怪我が発生した際の応急手当の仕方や、包帯の巻き方、三角巾での固定の仕方などを、実務的な内容で講習会を実施しました。知らなかった事が多く、三角巾も多様な使い方があり、非常に役に立つ講習会でした。怪我は発生しないようにしたいといけませんが、万が一の際は、慌てず適正な対応がとれるように、安心・安全・健全な会社運営をしていきたいと思ひます。

◆その他取り組み事項◆



①



②



③



④

- ① 工場内 LED対応！
- ② 工場屋上にて 太陽光発電の実施！
 ※2019年度発電量：神戸工場・・・6,224,974kWh 南港工場・・・6,302,514kWh※
- ③ 全収集・運搬車輛にドライブレコーダーの搭載！
- ④ 営業車両 ハイブリッド車の導入 80%！

□組織の概要

更新日：2020年4月23日

- (1) 名称及び代表者名
西部サービス株式会社
代表取締役 片境 邦喜
- (2) 所在地
本社・大阪工場 大阪府大阪市淀川区田川北三丁目4番46号
神戸工場 兵庫県神戸市東灘区住吉浜17番
TEL:078-857-3818 FAX:078-857-4141
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者 管理部 日吉 弘幸
担当者 管理部 碓 薫
- (4) 事業内容
産業廃棄物の中間処理業及び収集運搬業とRPF(石炭代替燃料)の製造及び販売
- (5) 事業の規模
法人設立 昭和63年11月
資本金 2000 万円
売上高 16 億円 (事業期間4月～翌年3月)

	本社・大阪工場	神戸工場
従業員	16 名	36 名
延べ床面積	760 m ²	4950 m ²

受託した産業廃棄物の処理量

	2019年度	2018年度	2017年度
収集運搬受託量	23,381 t	25,355 t	25,988
廃棄物受託量	33,268 t	29,361 t	32,021 t
①RPF製造量	11,680 t	13,778 t	21,922 t
②フラフ燃料製造量	11,931 t	4,861 t	1,465 t
③有価物排出量	756 t	772 t	772 t
外部搬出量(※①②③以外)	8,958 t	9,999 t	8,427 t
リサイクル率 ※1	73.1 %	66.0 %	74.1 %
外部搬出の内、最終処分した量	2,849 t	995 t	231 t

※1 自社基準として、①②③のみをリサイクル率としてカウント。焼却(サーマルリサイクル)などは除外。

車輛一覧

車種	台数	備考	車種	台数	備考
ユンボ	7 台	大阪1/神戸6	4tコンテナ車	6 台	大阪工場
フォークリフト	7 台	大阪3/神戸4	5tコンテナ車	2 台	大阪工場
ホイローダー	1 台	神戸工場	10tコンテナ車	2 台	大阪工場
スーパー	1 台	神戸工場	5t塵芥車	4 台	大阪工場
営業車	9 台	神戸工場	4t塵芥車	1 台	大阪工場
合計	25 台	大阪4/神戸21	キャブオーバー	3 台	大阪工場
			合計	18 台	大阪18

主要設備

名称	台数
2軸破碎機	2 基
選別機	3 基
磁選機	2 基
1軸破碎機	2 基
成形機	2 基

設備許可能力

処理能力(最大値)	
①選別・破碎施設	273.16t/日(汚泥)
②破碎施設	66.40t/日(汚泥)
③選別施設	390.72t/日(がれき類)
④光学選別施設	650.88t/日(金属くず)
⑤減容固化施設	273.40t/日(汚泥)
⑥破碎施設	138.52t/日(汚泥)
⑦破碎・減容固化施設	66.40t/日(汚泥)

積み替え保管施設

名称	保管面積	保管上限	積上げ高さ
西部サービス(株)大阪工場	187 m ²	501 m ³	4 m
西部サービス(株)神戸工場	62.4 m ²	116.4 m ³	5 m

□認証・登録の対象組織・活動

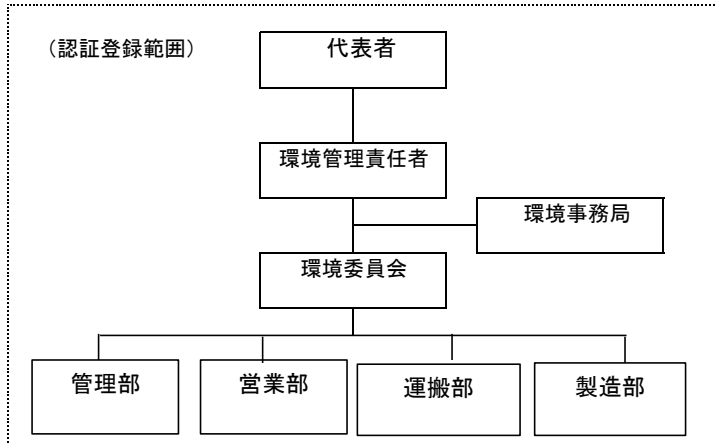
登録組織名：西部サービス株式会社
対象事業所：神戸工場(神戸市東灘区住吉浜17番)
本社・大阪工場(大阪市淀川区田川北三丁目4番46号)

活動：産業廃棄物中間処理及びRPF製造販売、産業廃棄物収集運搬及び積み替え保管業

□事業の紹介

当社に持ち込まれた産業廃棄物を、作業員での手選別を始め、高度な機械を使い、混合廃棄物を細かく分別し、RPFに使用する廃棄物を選別していきます。
これまで再生利用が困難であった廃プラスチックでRPFを製造し、石炭の代替品となるクリーンでエコロジックな燃料を販売しています。

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□許可の内容

産業廃棄物収集運搬業許可の内容

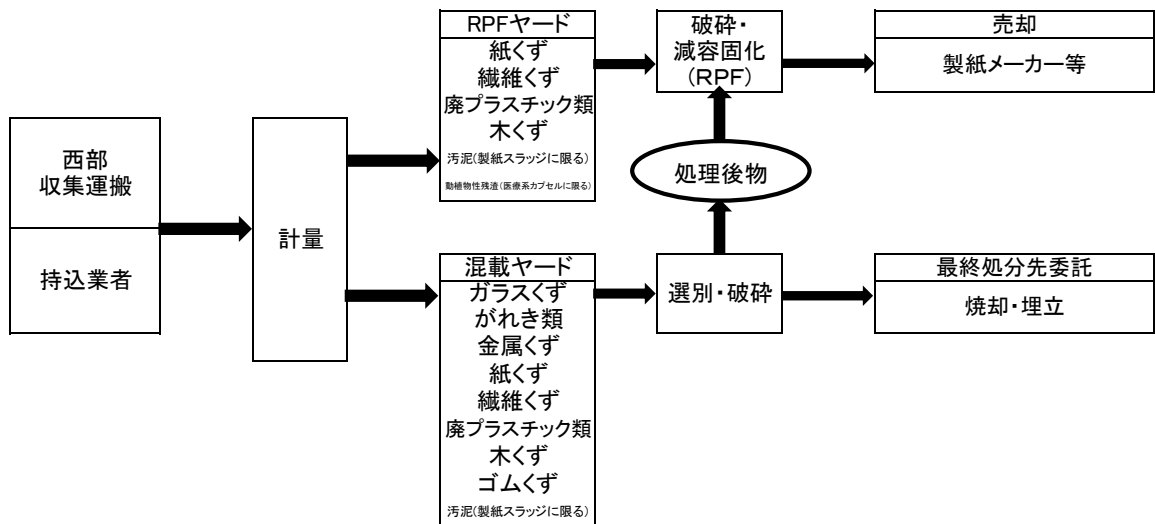
許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	廃棄物の種類															
					燃え殻	汚泥	廃プラスチック	木くず	紙くず	繊維くず	ゴムくず	ガラス・コンクリート・陶器くず	がれき類	廃油	廃酸	廃アルカリ	金属くず	動植物性残さ	鉱さい	ばいじん
大阪市 ★	6610018706	平成26年7月25日	令和8年7月26日	有	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
大阪府 ★	2700018706	平成28年11月22日	令和5年11月21日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
兵庫県 ★	2803018706	平成29年2月20日	令和6年2月19日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
神戸市 ★	6910018706	平成28年4月15日	令和5年4月14日	有	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
京都府	2600018706	平成27年8月11日	令和2年6月20日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
奈良県	2900018706	平成27年8月10日	令和2年8月9日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
和歌山県 ★	3000018706	平成29年9月29日	令和6年9月28日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
滋賀県 ★	2501018706	平成27年4月13日	令和9年3月29日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
三重県 ★	2400018706	平成27年3月27日	令和9年2月15日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
鳥取県 ★	3101018706	平成29年12月10日	令和6年12月9日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
東京都	1300018706	平成29年11月10日	令和4年11月9日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
千葉県	1200018706	平成30年1月10日	令和5年1月9日	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

産業廃棄物処分許可の内容

許可区域	許可番号			事業の範囲	廃棄物の種類									
		許可年月日	許可有効年月日	中間処理	廃プラスチック	木くず	紙くず	繊維くず	ガラス・コンクリート・陶器くず	がれき類	金属くず	汚泥（製紙スラッジに限る）	動植物性残渣（畜産系カプセルに限る）	ゴムくず
神戸市 ★	6920018706													
		平成28年4月15日	令和5年4月14日	選別・破砕	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		平成28年4月15日	令和5年4月14日	破砕	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		平成28年4月15日	令和5年4月14日	選別	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		平成28年4月15日	令和5年4月14日	光学選別	●	●	●	●			●			●
		平成28年4月15日	令和5年4月14日	減容固化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		平成28年4月15日	令和5年4月14日	破砕・減容固化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

★ 優良許可認定

□廃棄物処理フロー



□主な環境負荷の実績(全社) (2020年4月23日現在)

項 目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	2,942,091	3,149,182	2,642,507	2,755,132
廃棄物排出量					
一般廃棄物排出量	kg	-	-	323	851
総排水量	m ³	8,101	7,371	6,237	4,343

□環境経営目標及びその実績(全社) (事業期間 2019年4月1日～2020年3月31日)

年 度 項 目			2017年度	2019年度		評価	2020年度	2021年度
			基準年	目標	実績		目標	実績
電力使用量削減による二酸化炭素排出量削減(原単位)	神戸工場	kg-CO2	2,339,800	-	1,878,670		-	-
		kwh/万円	44.17	42.84	23.80	○	42.40	41.96
		基準年度比	-	97%	54%		96%	95%
	大阪工場	kg-CO2	22,579	-	50,465		-	-
		kWh/t	25.69	24.92	10.95	○	24.66	24.40
		基準年度比	-	97%	43%		96%	95%
LPG使用量削減による二酸化炭素排出量削減	両工場	kg-CO2	1,835	1,780	1,579	○	1,762	1,743
							-	-
		基準年度比	-	98%	89%		96%	95%
燃料による二酸化炭素排出量削減	神戸工場	kg-CO2	271,880	-	283,155		-	-
		km/ℓ(営業車)	14.66	14.96	15.52	○	15.10	15.25
		基準年度比(営業車)	-	102%	106%		103%	104%
		ℓ/万円(重機)	0.8686	0.8426	0.6267	○	0.8339	0.8252
		基準年度比(重機)	-	97%	72%		96%	95%
	大阪工場	kg-CO2	513,107	-	541,263		-	-
		ℓ/t(重機)	0.724	0.702	0.420	○	0.695	0.687
		基準年度比(重機)	-	97%	58%		96%	95%
		ℓ/万円(車両)	16.58	16.08	14.14	○	15.92	15.75
		基準年度比(車両)	-	97%	85%		96%	95%
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	3,149,201	-	2,755,131		-	-
一般廃棄物の削減	両工場	kg	1,226	1,226	851	○	1,202	1,189
		基準年度比		100%	69%		98%	97%
リサイクル率	神戸工場	%	64%	66%	73%	○	68%	69%
		基準年度比		102%	114%		105%	107%
水使用量	両工場	m³	7,371	-	4,343		-	-
		m³/万円	0.0618	0.0599	0.0249	○	0.0593	0.0587
		基準年度比	-	97%	40%		96%	95%
溶剤使用量削減(あるいは適正管理)		PRTRに該当する物質の取り扱いはありません。						

※二酸化炭素排出係数 0.493 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数

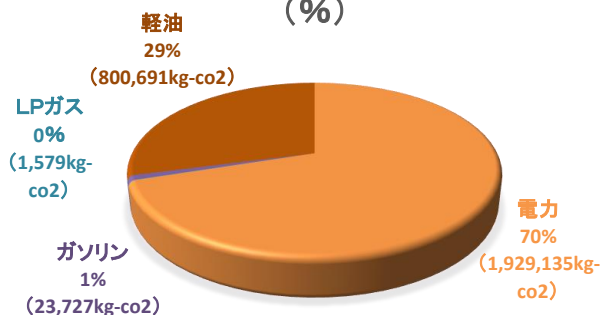
※原単位の分母・・・(t) : 中間処理受託量+フラフ燃料搬出量

★CO₂排出割合(kg-CO₂)

全社

電力	1,929,135	70%
LPガス	1,579	0%
ガソリン	23,727	1%
軽油	800,691	29%
合計	2,755,132	100%

西部サービス(株)全社 CO₂排出割合 (%)



□主な環境負荷の実績(神戸工場) (2020年4月23日現在)

項 目	単位	2016年度	2017年度(基準年)	2018年度	2019年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	2,389,275	2,613,459	2,086,550	2,163,400
廃棄物排出量					
一般廃棄物排出量	kg	-	-	604	608
総排水量	m ³	7,459	7,057	5,803	3,835

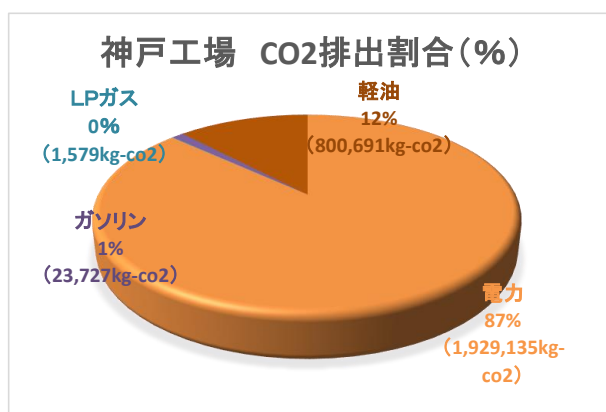
□環境経営目標及びその実績(神戸工場) (事業期間 2019年4月1日～2020年3月31日)

年 度 項 目		2017年	2019年		評 価	2020年	2021年
		基準年	目標	実績		目標	目標
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	2,339,800	-	1,878,670		-	-
	kWh/万円	44.17	42.84	23.80	○	42.40	41.96
	基準年度比	-	97%	54%		96%	95%
LPガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,780	1,727	1,575	○	1,709	1,691
	基準年度比		97%	89%		96%	95%
燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	271,880	-	283,155		-	-
	km/ℓ(営業車)	14.66	14.96	15.52	○	15.10	15.25
	基準年度比(営業車)	-	102%	106%		103%	104%
	ℓ/万円(重機)	0.8686	0.8426	0.6267	○	0.8339	0.8252
	基準年度比(重機)	-	97%	72%		96%	95%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	2,613,459	-	2,163,400		-	-
一般廃棄物の削減	kg	908	908	608	○	890	881
	基準年度比	-	100%	67%		98%	97%
受託廃棄物のリサイクル率の向上	%	74%	76%	73%	○	78%	79%
	基準年度比	-	102%	99%		105%	107%
水道水の削減	m ³	7,057	-	3,835		-	-
	m ³ /万円	0.0657	0.0637	0.0239	○	0.0630	0.0624
	基準年度比		97%	36%		96%	95%
溶剤使用量削減(あるいは適正管理)	PRTRに該当する物質の取扱はありません						

※原単位の分母・・・(t) : 中間処理受託量

★CO₂排出割合(kg-CO₂) 全社

電力	1,878,670	87%
LPガス	1,575	0%
ガソリン	23,727	1%
軽油	259,428	12%
合計	2,163,400	100%



大阪工場

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	552,816	535,741	555,978	591,732
廃棄物排出量					
一般廃棄物排出量	kg			318	243
総排水量	m ³	642	314	434	508

□環境経営目標及びその実績

(事業期間 2019年4月1日～2020年3月31日)

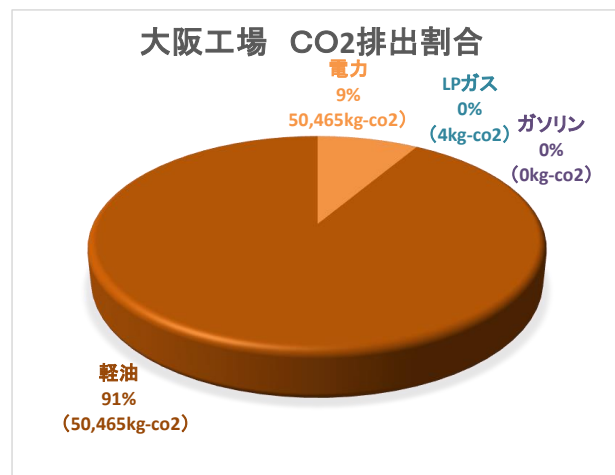
年 度 項 目		2017年度	2019年度		評 価	2020年度	2021年度
		基準年	目標	実績		目標	実績
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	22,579	-	50,465		-	-
	kWh/t	25.69	24.92	10.95		24.66	24.40
	基準年度比	-	97%	43%		96%	95%
LPガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	54.8	53.1	4.0		52.6	52.0
	基準年度比	-	97%	7%		96%	95%
重機・車両燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	513,107	-	541,263		-	-
	ℓ/t(重機)	0.724	0.702	0.420		0.695	0.687
	基準年度比(重機)	-	97%	58%		96%	95%
	ℓ/万円(車両)	16.58	16.08	14.14		15.92	15.75
	基準年度比(車両)		97%	85%		96%	95%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	535,741	-	591,732		-	-
一般廃棄物の削減	kg	318	318	243		312	308
	基準年度比		100%	76%		98%	97%
水道水の削減	m ³	314	-	508		-	-
	m ³ /万円	0.0264	0.0256	0.0350		0.0253	0.0251
	基準年度比		97%	132%		96%	95%

※二酸化炭素排出係数 0.493 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数

※原単位の分母…(t) : フラフ燃料搬出量

★CO₂排出割合 (kg-CO₂) 全社

電力	50,465	9%
LPガス	4	0%
ガソリン	0	0%
軽油	541,263	91%
合計	591,732	100%



□環境経営計画の取組結果とその評価 神戸工場

数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

神戸工場

電力による二酸化炭素削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標		○	RPF燃料からフラフ燃料の製造量増加へ大きくシフトしたため、目標を大きく上回る結果となる。2つの燃料を効率よく増産することにより、原単位での環境負荷が減るため、来期はより効率を意識した燃料製造ができるよう取り組む。
・空調温度の適正化(冷房25℃ 暖房20℃)		○	
・デマンド監視装置の設置による計測		◎	
・機械トラブルの削減		○	
・フラフ燃料の増産		◎	
・未使用箇所の消灯		○	

電力(kWh/万円)

■ 2017(基準年) ■ 2019年

取組紹介欄

- ・クールビズにおける夏場の事務員軽装
- ・事務所の窓に遮熱シートを貼り事務所内温度の均一化
- ・生産計画をたて、ロスのないよう効率の良い設備の稼働
- ・設備の点検をこまめに行い安定稼働に努める
- ・デマンド監視装置の設置による電力消費の抑制

電力	合計(kWh/万円)
2017(基準年)	44.17
2019年	23.80

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017(基準年)	48.10	48.00	46.29	43.92	48.32	45.69	48.58	50.67	42.45	39.70	32.97	34.27
2019年	25.23	21.73	23.90	21.75	23.47	20.94	24.71	22.26	23.50	24.88	27.23	26.73

神戸工場

LPガスによる二酸化炭素削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標		○	従業員が増え、お湯の使用量の増加が懸念されたが、暖冬だった事もあり、予想より使用量を抑えることができた。当社のCO2排出割合としては、非常に少ない項目だが、極力無駄を抑える取り組みを継続する。
・お湯の出っぱなしによる無駄の削減		○	

LPガス(kg-CO2)

■ 2017(基準年) ■ 2019年

取組紹介欄

- ・夏場のお湯の温度を下げる
- ・冬場のお風呂場の冷気対策
- ・掲示による抑制

LPガス	合計(kg-CO2)
2017(基準年)	1,780
2019年	1,575

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017(基準年)	230	134	135	88	63	75	77	132	216	185	233	211
2019年	216	144	123	83	49	53	60	116	172	136	213	211

神戸工場

燃料による二酸化炭素削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標		○	コロナウイルス外出規制による自粛により、使用量が減った事もあるが、下期から営業部にて、燃費に対する意識を高め、結果、燃費の改善へと繋がる。
・アイドリングストップの実施		○	
・効率的なルートでの営業活動		○	

ガソリン(l/km)

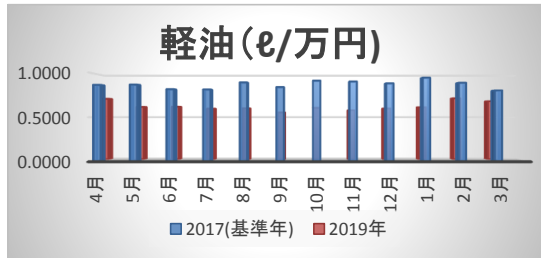
■ 2017(基準年) ■ 2019年

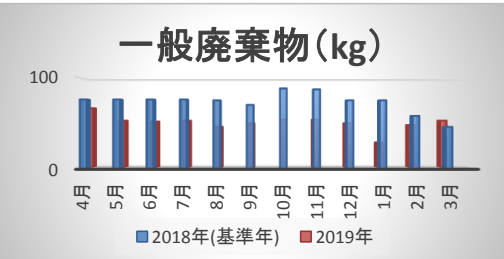
取組紹介欄

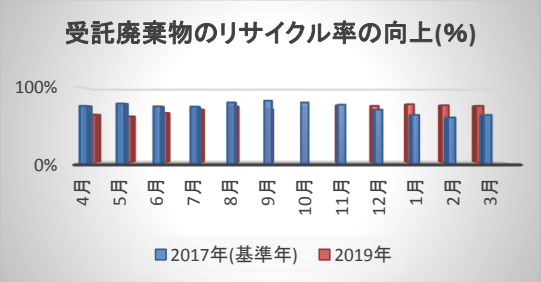
- ・営業活動のルート化
- ・アイドリングストップの教育
- ・各自車両の燃費把握による意識づけ
- ・構内一定速度の掲示による速度超過の抑制

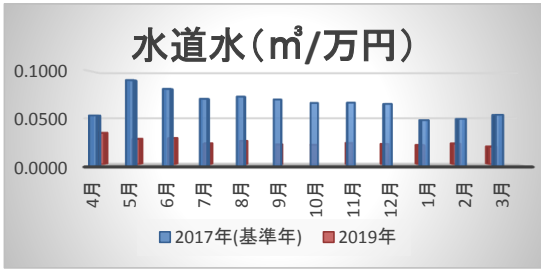
ガソリン	合計(l/km)
2017(基準年)	14.7
2019年	15.5

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017(基準年)	16.2	14.1	17.3	12.0	15.2	17.8	17.7	17.4	14.6	14.0	12.6	11.0
2019年	15.6	15.7	14.6	15.3	15.9	13.4	18.6	17.1	13.6	17.9	15.9	14.4

燃料による二酸化炭素削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容																																													
数値目標		○	フラフの増産により、重機の稼働率が上がり、燃料の使用量が上がったが、それ以上に売上が伸び、原単位での目標は達成。来期は効率を意識し、さらなる環境負荷低減に努める。																																													
・重機の運転教育		○																																														
・アイドリングストップ		○																																														
・日常点検の徹底		◎																																														
			取組紹介欄																																													
軽油 (ℓ/万円) <table><thead><tr><th>月</th><th>2017(基準年)</th><th>2019年</th></tr></thead><tbody><tr><td>4月</td><td>0.8659</td><td>0.7176</td></tr><tr><td>5月</td><td>0.8695</td><td>0.6219</td></tr><tr><td>6月</td><td>0.8175</td><td>0.6239</td></tr><tr><td>7月</td><td>0.8146</td><td>0.6013</td></tr><tr><td>8月</td><td>0.8943</td><td>0.6054</td></tr><tr><td>9月</td><td>0.8411</td><td>0.5568</td></tr><tr><td>10月</td><td>0.9140</td><td>0.6104</td></tr><tr><td>11月</td><td>0.9040</td><td>0.5814</td></tr><tr><td>12月</td><td>0.8835</td><td>0.6025</td></tr><tr><td>1月</td><td>0.9473</td><td>0.6177</td></tr><tr><td>2月</td><td>0.8896</td><td>0.7227</td></tr><tr><td>3月</td><td>0.8027</td><td>0.6882</td></tr></tbody></table>			月	2017(基準年)	2019年	4月	0.8659	0.7176	5月	0.8695	0.6219	6月	0.8175	0.6239	7月	0.8146	0.6013	8月	0.8943	0.6054	9月	0.8411	0.5568	10月	0.9140	0.6104	11月	0.9040	0.5814	12月	0.8835	0.6025	1月	0.9473	0.6177	2月	0.8896	0.7227	3月	0.8027	0.6882	軽油 DIESEL OIL ・構内一定速度の掲示による速度超過の抑制 ・安全教育による重機の取扱いの説明 ・新人教育の徹底 <table><thead><tr><th>軽油</th><th>合計(ℓ/万円)</th></tr></thead><tbody><tr><td>2017(基準年)</td><td>0.8686</td></tr><tr><td>2019年</td><td>0.6267</td></tr></tbody></table>	軽油	合計(ℓ/万円)	2017(基準年)	0.8686	2019年	0.6267
月	2017(基準年)	2019年																																														
4月	0.8659	0.7176																																														
5月	0.8695	0.6219																																														
6月	0.8175	0.6239																																														
7月	0.8146	0.6013																																														
8月	0.8943	0.6054																																														
9月	0.8411	0.5568																																														
10月	0.9140	0.6104																																														
11月	0.9040	0.5814																																														
12月	0.8835	0.6025																																														
1月	0.9473	0.6177																																														
2月	0.8896	0.7227																																														
3月	0.8027	0.6882																																														
軽油	合計(ℓ/万円)																																															
2017(基準年)	0.8686																																															
2019年	0.6267																																															
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																				
2017(基準年)	0.8659	0.8695	0.8175	0.8146	0.8943	0.8411	0.9140	0.9040	0.8835	0.9473	0.8896	0.8027																																				
2019年	0.7176	0.6219	0.6239	0.6013	0.6054	0.5568	0.6104	0.5814	0.6025	0.6177	0.7227	0.6882																																				

一般廃棄物の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容									
数値目標		○	無駄を無くすとともに、コピー用紙の紙くずは、自社でRPF化できるため、継続して燃料化リサイクルへ取り組む。また今期、電子契約書の導入を始めたため、積極的に推進し、さらなる削減へ繋げる。									
・分別の徹底		○										
・コピー用紙、シュレッダーゴミのRPF化		◎										
・必要書類のデータ化		◎										
			取組紹介欄									
一般廃棄物(kg)  ■ 2018年(基準年) ■ 2019年		・コピー用紙の両面化 ・ペーパーレス会議 ・契約書の電子化 										
		<table><tr><th>一般廃棄物</th><th>合計(kg)</th></tr><tr><td>2018(基準年)</td><td>908</td></tr><tr><td>2019年</td><td>608</td></tr></table>		一般廃棄物	合計(kg)	2018(基準年)	908	2019年	608			
一般廃棄物	合計(kg)											
2018(基準年)	908											
2019年	608											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年(基準年)	76	76	76	76	75	70	88	87	75	75	58	46
2019年	67	53	52	53	46	50	54	54	50	28	48	53

受託廃棄物のリサイクル率の向上		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容									
数値目標		○	RPF：C品の需要減少から、前半はリサイクル率が落ち込んでしましたが、フラフ燃料が軌道にのり、改善へと繋がる。今後も2つのを増産することが、リサイクル率の改善への鍵なので、機械トラブルを防ぎ、設備の安定稼働へと繋げる。									
・RPF、フラフ燃料の生産能力向上、機械トラブル削減		○										
・選別作業の徹底		○										
・搬出先（RPF、フラフ）の開拓		○										
・排出先の分別徹底の依頼		○										
			取組紹介欄									
受託廃棄物のリサイクル率の向上(%) 			 ・作業員の手選別の教育、徹底 ・営業による、排出事業者様への勉強会 ・設備導入会社との3ヵ月に1度のメンテナンスによる設備の安定稼働									
			<table><tr><th>リサイクル率</th><th>合計(%)</th></tr><tr><td>2017(基準年)</td><td>74%</td></tr><tr><td>2019年</td><td>73%</td></tr></table>	リサイクル率	合計(%)	2017(基準年)	74%	2019年	73%			
リサイクル率	合計(%)											
2017(基準年)	74%											
2019年	73%											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017(基準年)	75%	79%	75%	75%	80%	82%	80%	77%	71%	64%	61%	64%
2019年	65%	63%	67%	72%	76%	72%	75%	77%	77%	79%	78%	77%

水道水の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容																	
数値目標		○	RPF燃料からフラフ燃料へシフトした事により、RPF冷却水の使用量が減少。来期以降も、原単位の分母である売上を伸ばすとともに、水を無駄に使用する事がないように意識して取り組む。																	
・節水の掲示による注意喚起		○																		
・RPF水沈CVの冷却水、未使用時は止める。		◎																		
			取組紹介欄																	
水道水(m³/万円)  ■ 2017年(基準年) ■ 2019年			・節水の掲示 ・RPF製造にロスがないよう、製造の教育 ※原単位評価としては× ※使用量としては前年度より削減  <table><tr><th>水道水</th><th>合計(m³/万円)</th></tr><tr><td>2017(基準年)</td><td>0.0657</td></tr><tr><td>2019年</td><td>0.0239</td></tr></table>												水道水	合計(m³/万円)	2017(基準年)	0.0657	2019年	0.0239
水道水	合計(m³/万円)																			
2017(基準年)	0.0657																			
2019年	0.0239																			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月								
2017年(基準年)	0.0530	0.0899	0.0808	0.0704	0.0727	0.0697	0.0661	0.0664	0.0651	0.0481	0.0495	0.0537								
2019年	0.0342	0.0277	0.0286	0.0228	0.0254	0.0215	0.0212	0.0231	0.0220	0.0209	0.0226	0.0193								



□環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

大阪工場

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	フラス燃料が大きく増産された中、効率よく設備稼働が行えた結果と思います。来期も機械トラブル等をなくし、安定稼働に努め、効率を意識したフラス燃料の増産を目指します。
・空調温度の適正化(冷房25℃ 暖房20℃)	○	
・機械トラブルの削減	○	
・フラス燃料の増産	◎	
・未使用箇所の消灯	○	

電力 (kWh/t)

■ 2017(基準年) ■ 2019年

取組紹介欄

- ・クールビズにおける夏場の事務員軽装
- ・生産計画をたて、ロスのないよう効率の良い設備の稼働
- ・設備の点検をこまめに行い安定稼働に努める

電力	合計(kWh/t)
2017(基準年)	25.69
2019年	10.95

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017(基準年)	25.01	6.13	8.76	37.29	55.13	26.57	37.53	65.99	102.23	54.66	141.60	28.78
2019年	16.33	13.35	13.38	9.69	11.54	12.12	8.80	9.64	11.04	10.49	10.97	8.77

大阪工場

LPガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	大阪工場については、現状、ガスはほぼ使用しておらず、数字が発生していない。
・お湯の出っぱなしによる無駄の削減	◎	

都市ガス(kg-CO2)

■ 2017(基準年) ■ 2019年

取組紹介欄

- ・夏場のお湯の温度を下げる
- ・冬場のお風呂場の冷気対策
- ・掲示による抑制

電力	合計(kg-CO2)
2017(基準年)	54.78
2019年	3.96

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017(基準年)	23.1	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.6	5.9	6.6	6.6
2019年	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

大阪工場

重機・車両燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	フラス燃料の自動圧縮梱包機を導入してから、大幅に軽油の使用量が増えているが、その分、生産量も大幅に増えたため、目標達成となる。来期も、重機の使用効率を考えながら、フラス燃料の増産に努める。
・重機の運転教育	○	
・アイドリングストップ	○	
・日常点検の徹底	○	

軽油(重機)(ℓ/t)

■ 2017(基準年) ■ 2019年

取組紹介欄

- ・安全教育による重機の取扱いの説明
- ・アイドリングストップの教育
- ・各自車両の燃費把握による意識づけ

軽油(重機)	合計(ℓ/t)
2017(基準年)	0.724
2019年	0.420

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017(基準年)	1.067	0.000	0.000	5.516	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7.007	2.744
2019年	0.605	0.401	0.462	0.281	0.520	0.312	0.574	0.289	0.320	0.732	0.306	0.343

軽油(車両)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	軽油の使用量は、増えているが、売上の増加及び、効率的な収集、日常点検の徹底がこの結果につながったと思います。また車両を1台、低燃費車へ入れ替えため、その効果もあると思います。
・アイドリングストップの実施	○	
・効率的なルートでの収集活動	○	
・日常点検の徹底	○	

軽油(車両) (ℓ/万円)	取組紹介欄						
	・構内一定速度の掲示による速度超過の抑制 ・安全教育による重機の取扱いの説明 ・各自車両の燃費把握による意識づけ ・アイドリングストップの教育						
	<table border="1"> <tr> <th>軽油(車両)</th><th>合計(ℓ/万円)</th></tr> <tr> <td>2017(基準年)</td><td>16.58</td></tr> <tr> <td>2019年</td><td>14.14</td></tr> </table>	軽油(車両)	合計(ℓ/万円)	2017(基準年)	16.58	2019年	14.14
軽油(車両)	合計(ℓ/万円)						
2017(基準年)	16.58						
2019年	14.14						

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017(基準年)	16.07	14.03	16.11	15.92	15.57	12.54	18.51	16.54	19.16	17.73	19.46	19.63
2019年	14.75	17.17	14.11	15.08	14.46	14.68	14.67	13.71	13.13	11.33	13.84	13.35

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	コピー用紙や、書類関係のRPF化を徹底できたことが、一般廃棄物の削減に繋がっています。大阪工場においては、使用量は多くはありませんが、できることから進めていき、今後も削減に努めます。
・分別の徹底	○	
・コピー用紙、シュレッダーゴミのRPF化	◎	
・必要書類のデータ化	○	

一般廃棄物(kg)	取組紹介欄						
	・ゴミ抑制の掲示 ・コピー用紙などは、ごみ箱には入れず、RPF化BOXへ入れる						
	<table border="1"> <tr> <th>一般廃棄物</th><th>合計(kg)</th></tr> <tr> <td>2018(基準年)</td><td>318</td></tr> <tr> <td>2019年</td><td>243</td></tr> </table>	一般廃棄物	合計(kg)	2018(基準年)	318	2019年	243
一般廃棄物	合計(kg)						
2018(基準年)	318						
2019年	243						

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年(基準年)	27	27	27	27	30	32	28	20	20	20	20	20
2019年	22	20	21	20	21	20	20	20	21	18	20	20

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標 98%減	×	プラフ燃料製造において、飛散防止のため、散水設備を稼働させたため、使用量が大幅に増加してしまう。売上は伸びているので、無駄に使用しないように考えながら、原単位の推移を確認していく。
・節水の掲示による注意喚起	△	
・効率的な洗車水の使用を心掛ける。	○	

水道水(m³/万円)	取組紹介欄						
	・節水の掲示 ・効率的な洗車を行うように教育						
	<table border="1"> <tr> <th>水道水</th><th>合計(m³/万円)</th></tr> <tr> <td>2017(基準年)</td><td>0.0264</td></tr> <tr> <td>2019年</td><td>0.0350</td></tr> </table>	水道水	合計(m³/万円)	2017(基準年)	0.0264	2019年	0.0350
水道水	合計(m³/万円)						
2017(基準年)	0.0264						
2019年	0.0350						

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年(基準年)	0.0252	0.0261	0.0275	0.0282	0.0255	0.0228	0.0201	0.0308	0.0225	0.0403	0.0306	0.0201
2019年	0.0253	0.0557	0.0460	0.0355	0.0485	0.0354	0.0374	0.0403	0.0225	0.0249	0.0321	0.0238

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無
適用を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	確認日
廃棄物処理法	収集運搬業、中間処理業、産業廃棄物処理委託 等	○ 2019.10.30
消防法	自動火災報知設備・消火器具の設置、神戸市指定可燃物届出、大阪市火災予防条例	○ 2019.10.30
騒音規制法	2軸破碎機、1軸破碎機、プレス機	○ 2019.10.30
振動規制法	2軸破碎機、1軸破碎機、プレス機	○ 2019.10.30
高圧ガス保安法	貯蔵・消費に関する技術上の基準	○ 2019.10.30
労働安全衛生法	安全衛生推進者の選任、蛍光X線分析装置設置の際の届出	○ 2019.10.30
計量法	定期検査の実施、登録番号を計量証明書への明記	○ 2019.10.30
自動車Nox・PM法	大阪市普通トラック排出基準の適合または猶予期間	○ 2019.10.30
道路交通法	安全運転管理者の選任・届出	○ 2019.10.30
アイドリングストップ条例	自動車の駐車における原動機の停止、排ガスの抑制	○ 2019.10.30
自動車リサイクル法	使用済自動車の引渡	○ 2019.10.30
グリーン購入法	物品購入時の県境物品の選択	○ 2019.10.30
フロン排出抑制法	フロンを含む機器等の廃棄、業務用エアコン等の年間点検等	○ 2019.10.30
家電リサイクル法	特定家庭用機器の廃棄時。	○ 2019.10.30
大阪府生活環境の保全に関する条例	車種規制適合車の運行	○ 2019.10.30
浄化槽法	保守点検、清掃	○ 2019.10.30
大気汚染防止法	一般粉塵施設の設置、変更、廃止	○ 2019.10.30
建築物省エネ法	特定建設物の届出	○ 2019.10.30
大阪市条例	資源化可能な紙類の持込禁止	○ 2019.10.30

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 火災発生における初期消火訓練	
■実施日： 2019年5月29日	■実施場所： 神戸工場
■参加者： 執行役員:1名 製造部:11名 営業部 3名 運搬部:3名 管理部:2名 設備部:2名	■実施内容:混載デ・ストーナ下のヤードより出火を想定し、消火栓を使用した初期消火訓練を行う。
■評価:	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
今回はRPFの設備を停止することなく、緊急停止するか作業の継続をするかの工場長判断をいれた。破碎機、成形機が動いた状態(停め忘れ)で、一部は、消火活動に参加しないようにし、二次災害が起きるリスクを減らすことを考え実施。意義のある消火訓練であった。	
■実施状況の様子	
	

緊急事態の想定： 火災訓練の発生	
■実施日： 2019年11月13日	■実施場所: 神戸工場、神戸事務所
■参加者： 製造部:8名 設備部:2名 運搬部:8名 営業部:6名 管理部:7名	■実施内容:消火訓練及び初期消火に失敗後の非難訓練、そして緊急事態における非難梯子設置訓練
■評価:	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
初期消火に失敗し、工場長からの指示のもと、非難訓練を実施。今回は、非難後の従業員安全確認のための「点呼」に重点をおいて実施。すみやかな安否確認が、迅速な消防の消火活動へ繋がるため、有意義な訓練であった。	
■実施状況の様子	
	

□組織の概要

更新日：2020年4月23日

- (1) 名称及び代表者名
有限会社アルファフォルム
代表取締役 綾 一史
- (2) 所在地
本社 大阪府大阪市淀川区田川北三丁目4番46号（登記のみ）
南港工場 大阪府大阪市南港南1丁目1番175号
TEL：06-4703-4775 FAX：06-4703-4790
- (3) 環境管理責任者氏名
環境管理責任者 製造部 尾田 勝利
担当者 管理部 日吉 弘幸
- (4) 事業内容
産業廃棄物中間処理業、固形燃料（RPF）製造・販売

- (5) 事業の規模
法人設立 2000年12月
資本金 300 万円
売上高 8.3 億円（事業期間4月～翌年3月）

	南港工場
従業員	19 名
延べ床面積	4200 m ²

受託した産業廃棄物の処理量

	2019年度	2018年度	2017年度
廃棄物受託量	28,035 t	27,543 t	29,221 t
①RPF製造量	24,031 t	23,145 t	27,826 t
②有価物排出量	408 t	410 t	541 t
外部搬出量（※①②以外）	4,327 t	4,040 t	3,466 t
リサイクル率 ※1	85 %	85 %	89 %

※1 自社基準として、①②のみをリサイクル率としてカウント。焼却（サーマルリサイクル）などは除外。

重機	台数
ユンボ	4 台
フォークリフト	3 台
ホイローダー	1 台
スキャパー	1 台
合計	9 台

主要設備

名称	能力	名称
減容固化施設	138 t/日	400型成形機×2基
破碎・切断施設	575m ³ /日	2軸破碎機
選別施設	960m ³ /日	バリオセパレータ、ユニソート、磁力選別機

□認証・登録の対象組織・活動

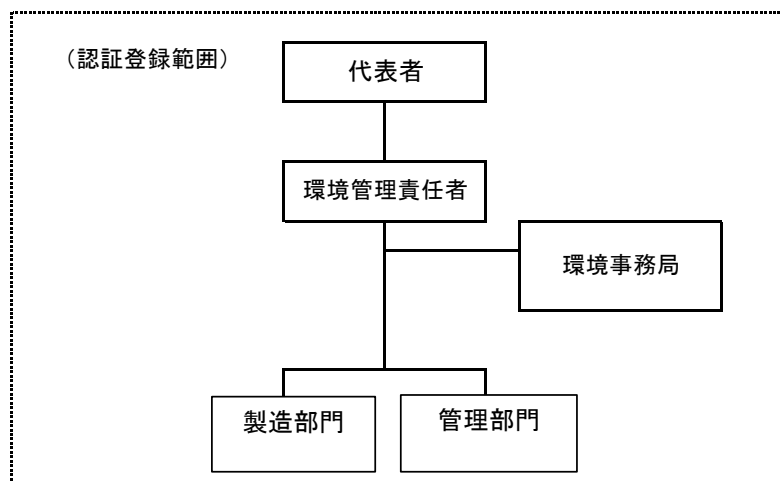
登録組織名： 有限会社アルファフォルム
対象事業所： 南港工場（※本社：登記のみ）
事業活動： 産業廃棄物中間処理業、固形燃料（RPF）製造・販売

□事業の紹介

当社に持ち込まれた産業廃棄物を、作業員での手選別を始め、高度な機械を使い、混合廃棄物を細かく分別し、RPFに使用する廃棄物を選別していきます。
これまで再生利用が困難であった廃プラスチックでRPFを製造し、石炭の代替品となるクリーンでエコロジックな燃料を販売しています。

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2020年4月23日



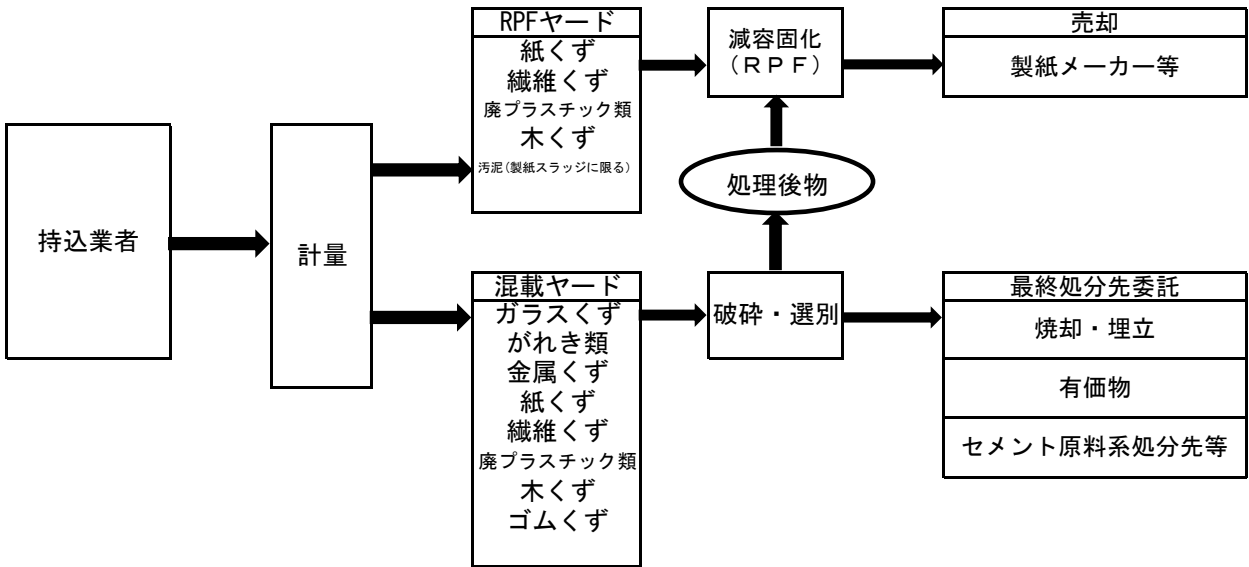
	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□許可の内容

産業廃棄物処分許可の内容

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	事業の範囲	廃棄物の種類									
大阪市	6620162645			中間処理	廃プラスチック	木くず	紙くず	繊維くず	ガラス・コンクリート・陶器くず	がれき類	金属くず	汚泥（製紙スラッジに限る）	動植物性残渣（医薬品カプセルに限る）	ゴムくず
		平成28年12月7日	令和3年12月6日	減容固化	●	●	●	●				●		
		平成28年12月7日	令和3年12月6日	破碎・切断	●	●	●	●	●	●	●			●
		平成28年12月7日	令和3年12月6日	選別	●	●	●	●	●	●	●			●

□廃棄物処理フロー



□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2017年	2018年	2019年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	2,763,576	2,694,754	2,827,037
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	490	513	374
総排水量	m ³	8932	8,736	5,441

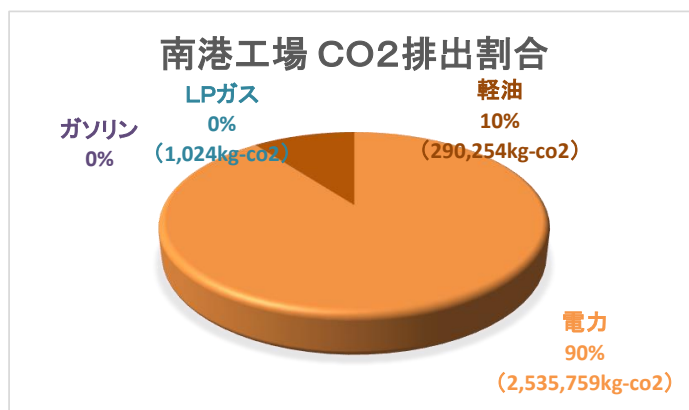
□環境経営目標及びその実績

年 度 項 目		2017年	2019年		評 価	2020年度	2021年度
		基準値	今期			翌期	翌々期
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	2,460,116	-	2,535,759		-	-
	kWh/万円	78.49	77.71	61.71	○	76.92	76.14
	基準年度比	-	99%	79%		98%	97%
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO2	1,228	1,203	1,153	○	1,203	1,191
	基準年度比	-	98%	94%		98%	97%
燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	302,233	-	290,254		-	-
	ℓ/万円	1.8391	1.8207	1.3471	○	1.8023	1.7839
	基準年度比	-	99%	73%		98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	2,763,576	-	2,827,166	○	-
一般廃棄物の削減	kg	490	485	374	○	480	475
	基準年度比	-	99%	76%		98%	97%
受託廃棄物のリサイクル率の向上	%	89.1%	84.7%	85.0%	○	84.7%	84.7%
	基準年度比	-	95%	95%		95%	95%
水道水の削減	m³	8,932	-	5,892		-	-
	m³/万円	0.1405	0.1377	0.0707	○	0.1349	0.1321
	基準年度比	-	98%	50%		96%	94%
溶剤使用量削減（あるいは適正管理）		PRTRを使用した物質の取扱はありません					

※電力量と重機燃料と水道水の目標数値は原単位（エネルギー使用量/売上）で求める

★CO₂排出割合（kg-CO₂） 全社

電力	2,535,759	90%
LPガス	1,024	0%
ガソリン	0	0%
軽油	290,254	10%
合計	2,827,037	100%



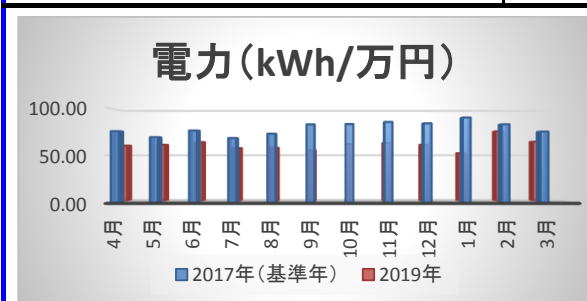
□環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

南港工場

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	電気の使用量は、前年よりも増加しているが、その分売上が伸びているため、原単位でも目標を達成する。今期、RPF成型機の設備を更新し、生産能力が増える分、使用電力も増えるため、安定稼働及び、生産量を上げる事により、来期も目標達成できるように努める。
・空調温度の適正化（冷房25℃ 暖房20℃）	○	
・デマンド監視装置の設置による計測	◎	
・機械トラブルの削減	○	
・未使用箇所の消灯	○	



取組紹介欄

- ・デマンド管理装置の設置による計測
- ・設備に負荷がかからない様、早めの部品交換を行うことによって、設備の能力を高め電力削減を実施

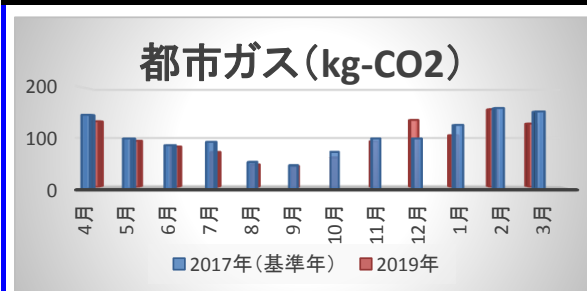


電力	合計(kWh/万)
2017(基準年)	78.49
2019年	61.71

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年(基準年)	75.55	69.27	76.34	68.34	72.92	82.75	83.09	85.35	83.83	89.89	82.81	75.05
2019年	60.82	61.73	64.62	58.08	58.34	55.35	62.52	63.50	61.69	52.48	76.29	64.98

南港工場

都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	お湯の無駄の削減を意識することにより、ガスの使用量を削減できたと思います。ただ、今期末より人員が増加したため、来期以降はどうしても使用量の増加が見込まれます。引き続き、無駄な使用がないように努め、数字の推移を確認していく。
・お湯の出しっぱなしによる無駄の削減	○	



取組紹介欄

- ・お湯の温度設定の貼り出し

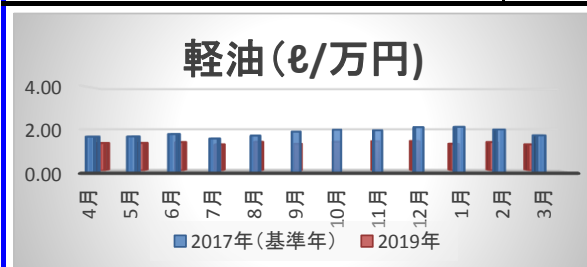


都市力	合計(kg-co2)
2017(基準年)	1,228
2019年	1,153

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年(基準年)	145	99	86	92	53	46	73	99	99	125	158	152
2019年	134	94	83	71	46	42	60	93	137	106	158	129

南港工場

重機燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	原単位の分母である売上が伸び、軽油の使用量も落とせたため、非常に良い傾向になっていると思います。成型機入れ替えにより、より良い結果がだせる状況にはあると思いますので、次年度も取り組みを継続していく。
・重機の運転教育	○	
・アイドリングストップ	○	
・日常点検の徹底	○	



取組紹介欄

- ・受入量が増えたこともあり、安全に走行できるよう、作業員の指導を行っている
- ・安全大会を年に1度開催

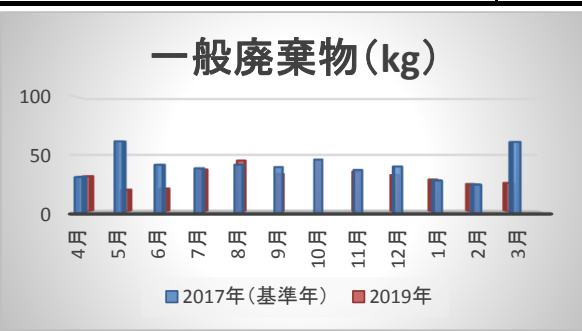


軽油	合計(l/万円)
2017(基準年)	1.84
2019年	1.35

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年(基準年)	1.66	1.67	1.78	1.57	1.71	1.89	1.98	1.96	2.10	2.12	1.99	1.72
2019年	1.33	1.34	1.38	1.27	1.39	1.29	1.39	1.42	1.43	1.30	1.38	1.27

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	分別の徹底、書類のRPF化を意識することにより、削減することができたと思います。来期も継続の上、削減及び自社での再資源化に努めます。
・分別の徹底	○	
・コピー用紙、シュレッダーゴミのRPF化	○	
・必要書類のデータ化	○	

一般廃棄物(kg)



月	2017年(基準年)	2019年
4月	31	31
5月	62	19
6月	42	20
7月	39	37
8月	42	45
9月	40	33
10月	46	45
11月	37	35
12月	40	32
1月	28	28
2月	25	24
3月	61	25

取組紹介欄

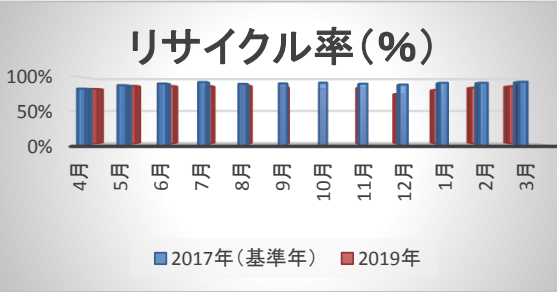
- ・コピー用紙などの廃棄はRPFの原料とする
- ・会議資料などデータ化にて報告



一般廃	合計(kg)
2017(基準年)	490
2019年	374

受託廃棄物のリサイクル率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	中国環境規制の影響に伴って、リサイクル率を基準年対比95%で設定しているが、かろうじて目標達成となる。南港工場は、RPFの燃料化に注力し、リサイクル率が非常に高い工場なので、選別作業を徹底し、少しでも多く再資源化を行えるように努める。
・RPFの生産能力向上、機械トラブル削減	○	
・選別作業の徹底	○	
・搬出先（RPF）の開拓	○	
・排出先の分別徹底の依頼	○	

リサイクル率(%)



月	2017年(基準年)	2019年
4月	82%	83%
5月	87%	88%
6月	89%	88%
7月	92%	88%
8月	89%	88%
9月	90%	86%
10月	91%	83%
11月	89%	85%
12月	88%	76%
1月	91%	82%
2月	91%	85%
3月	92%	87%

取組紹介欄

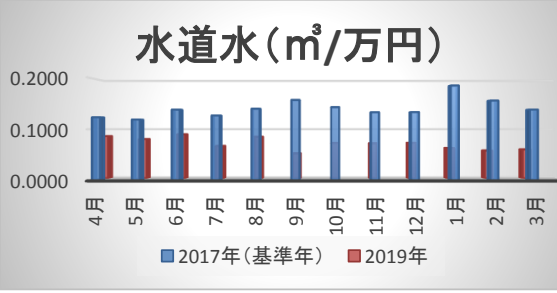
- ・ベテラン作業員の廃棄物の知識を共有することで、手選別の精度をあげています
- ・選別設備を安定的に動かすため、日々のメンテナンスをしっかりと実施
- ・危険物、不適物の混入を防ぐべく、排出元様・収集業者様に注意喚起

リサイクル率	合計(%)
2017(基準年)	89%
2019年	85%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年(基準年)	82%	87%	89%	92%	89%	90%	91%	89%	88%	91%	91%	92%
2019年	83%	88%	88%	88%	88%	86%	83%	85%	76%	82%	85%	87%

水使用量の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標		○	1年を通して、目標を大幅に達成となる。RPF：C品の冷却水使用を品質の観点から使用量を控えたため、その影響が強いですが、使用量の大幅削減となりました。引き続き、冷却と品質を両立させながら、製造することにより、削減に努めていきたいと思ひます。
・節水の掲示による注意喚起		○	
・RPF水洗CVの冷却水、未使用時は止め		○	

水道水(m³/万円)



月	2017年(基準年)	2019年
4月	0.1234	0.0860
5月	0.1189	0.0801
6月	0.1383	0.0900
7月	0.1269	0.0660
8月	0.1401	0.0848
9月	0.1571	0.0508
10月	0.1430	0.0720
11月	0.1331	0.0714
12月	0.1334	0.0722
1月	0.1852	0.0617
2月	0.1559	0.0566
3月	0.1383	0.0589

■ 2017年(基準年) ■ 2019年

取組紹介欄

- ・RPF成型率をあげ、しっかりと固まる製品をつくる
- ・ロスの無い生産ができるよう、作業員の力量教育を行っている
- ・事務所内では節水推進のポスターを貼り、従業員に周知させている

水道水	合計(m³/万)
2017(基準年)	0.1405
2019年	0.0707



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年(基準年)	0.1234	0.1189	0.1383	0.1269	0.1401	0.1571	0.1430	0.1331	0.1334	0.1852	0.1559	0.1383
2019年	0.0860	0.0801	0.0900	0.0660	0.0848	0.0508	0.0720	0.0714	0.0722	0.0617	0.0566	0.0589

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	確認日
廃棄物処理法	中間処理業、産業廃棄物（廃プラ、廃ガラス、廃油等）	R1. 10. 1 ○
道路運送車両法	車両の大きさ・重量、乗車の保安基準	R1. 10. 1 ○
道路交通法	車両の大きさ・重量、通行制限	R1. 10. 1 ○
廃棄物処理法	収集運搬業、中間処理業、産業廃棄物	R1. 10. 1 ○
大阪府条例（流入車規制）	収集運搬車	R1. 10. 1 ○
騒音規制法	空気圧縮機、送風機	R1. 10. 1 ○
振動規制法	空気圧縮機	R1. 10. 1 ○
水質汚濁法	煮湯設備、洗浄設備	R1. 10. 1 ○
下水道法	除害施設	R1. 10. 1 ○
消防法（危険物）	危険物の保管	R1. 10. 1 ○
フロン排出抑制法	業務用空調機	R1. 10. 1 ○
顧客要求事項	RPF製品の塩素数値基準	R1. 10. 1 ○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 令和1年5月22日	■実施場所 アルファフォルム 南港工場
■参加者： 代表取締役：2名 執行役員：1名 製造部 13名 管理部 1名 営業部：1名	■実施内容 残渣ヤードより出火を想定し、消火栓を使用した初期消火訓練を行う。
■評価：	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
電子タバコの普及により小火の回数が増えている状況で、新人の初期消火訓練としても有意義な訓練であった。	
■実施状況の様子	
	

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 令和1年11月6日	■実施場所 アルファフォルム 南港工場
■参加者： 代表取締役：2名 製造部：11名 管理部：4名 運搬部：2名	■実施内容： 消防隊員立ち合いのもと、消火・避難・通報訓練を行う。
■評価：	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
消防隊員の立ち合いのもと、消火→避難・通報の実務的な流れで実施。迅速な対応により消防からも評価を頂く。	
■実施状況の様子	
	

Access Map



西部サービス株式会社 神戸工場(本部)

兵庫県神戸市東灘区住吉浜町17番

TEL : 078-857-3818 FAX : 078-857-4141



有限会社アルファフォルム 南港工場

大阪市住之江区南港南1-1-175

TEL : 06-4703-4775 FAX : 06-4703-4790

西部サービス株式会社 大阪工場(積替保管施設)

大阪市淀川区田川北3丁目4番46号

西部サービスグループHP : <http://www.seibu-recycle.co.jp>



Producing clean energy for the future

